

編訳者の言葉

ある日、市場晋吾先生から「ECMOの翻訳本を出したいんだよね」と相談を受け、原書である“ECMO in the Adult Patient”を購入して拝読しました。非常に読みやすく、著者が現在の世界のECMOを牽引している先生方であることにも、より興味をかきたてられました。Daniel Brodie先生は現在の世界のECMOの三銃士の一人で、香港のECMO training courseでのインストラクターの際にご一緒しました。Giles Peek先生は市場晋吾先生の留学先の恩師であり、英国のGlenfield general Hpでの短期研修の際にお世話になりました。Alain Combes先生はEOLIA trialの責任医であり、Euro ELSOではお世話になっています。Jo-anne Fowles先生はPapworth HpのECMO Nurseで英国のECMO Nurseを牽引しています。Papworth Hpの見学の際にはとても熱心に指導していただきました。彼らがタッグを組んで、Papworth HpのAlain Vuylsteke先生がそれらをとりまとめられた渾身の一冊が本翻訳書の原書になります。

各翻訳担当の先生方には適切な日本語として成立させることをコンセプトとして翻訳作業を徹底していただきました。欧米人では当然なことでも、われわれ日本人ではまだ思い至らないような記載も散見され、ECMOの理解を深めるのに最適な内容と考えています。まさにハンドブックとして相応しい内容であり、翻訳版のタイトルは、僭越ながら小生が編集している『ICU実践ハンドブック』などと同様の「実践ハンドブック」という言葉を使わせていただきました。

翻訳書の利点は、日本的な発想ではなく欧米人の発想に基づく記載となつており新鮮味に溢れている点にあります。そこにわれわれ日本の医師による管理の利点、エッセンスなども加味して各施設でECMO管理を継続していただければと思います。

「合併症がなく、安定したECMO管理は退屈である」という言い回しもしばしば耳にします。われわれにとっては退屈であっても、それは患者さんには非常に望ましいことです。どうかECMO診療に従事する皆様が、本書を片手にとても“退屈”な毎日を過ごしていただけることを切に願っております。

2020年2月

東京都立多摩総合医療センター・ECMOセンター 部長/センター長
清水敬樹